

(様式1)

大 学 名	京都大学	学 問 分 野	学際、複合、新領域
専 攻 等 名	アジア・アフリカ地域研究研究科(東南アジア地域研究専攻・アフリカ地域研究専攻・東南アジア研究センター)		
拠点の名称	世界を先導する総合的地域研究拠点の形成：フィールド・ステーションを活用した教育・研究体制の推進		
拠点リーダー氏名	加藤 剛	所属部局・職	大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授
プログラムの概要	アジア・アフリカ地域にフィールド・ステーションを設置し、共通研究テーマ「地球・地域・人間の共生」のもとに、フィールドの現場において臨地研究・臨地教育の融合を図る。また、「アジア・アフリカ地域研究統合情報化センター」の設置等を通して、地域・ディシプリンを横断する多元的な情報を統合的に蓄積、加工、発信する。		
拠点形成の目的・必要性	<p>京都大学におけるアジア・アフリカ地域研究に関するこれまでの蓄積の上に、新たな先端的な地域研究を推進し、そこに大学院教育とアジア・アフリカ地域研究情報の統合化を有効的に組み込むための研究教育体制の整備を行うことによって、研究・教育・社会的還元の有機的高度化を進め、アジアにあって世界を先導する総合的地域研究・教育拠点を形成する。</p> <p>21世紀を迎えた現在、言語文化領域や民族、国民国家とともに、それらと関連しつつも位相を異にする<地域>についての深い理解が必要とされている。それは、生態、社会、歴史の交差する場である地域にかかわる<知>の蓄積が、真に持続可能な地球社会の発展の方向性を打ち出し、アジア・アフリカを含む諸地域の自立と世界の共存を可能にする新たな秩序のあり方を構想するうえで、きわめて重要な役割を果たすと考えられるからでありここに学際的、文理融合的な総合的地域研究の重要性・必要性がある。</p>		
研究拠点形成実施計画	<p>(1) 臨地研究・臨地教育の支援のために、アジア・アフリカのいくつかの地域にフィールド・ステーションを設置し、教員・若手研究者・大学院生及び地元研究者・院生等による研究・教育を一体的に推進する体制を整える。</p> <p>(2) 統一研究テーマとして「地球・地域・人間の共生」を掲げ、これにかかわる問題群として「人間生態」「社会文化」「政治経済」「地域研究論」を設定し、臨地研究・臨地教育をこれらの問題群に沿って推進し、21世紀の要請に応えうる研究成果ならびに資料等の蓄積を図る。</p> <p>(3) 「アジア・アフリカ地域研究統合情報化センター」(設置計画中)に研究成果、文献、地図、画像等の多元的資料を蓄積し、それらをフィールド・ステーションにおける教育・研究活動と有機的に結合する。またこのセンターを核とし、国内外の地域研究教育機関、フィールド・ステーション等を結んだ「ネットワーク型アジア・アフリカ地域研究機構」を設立し、研究・教育成果の双方向的な発信と、知識の社会的還元を促進する。</p>		
教育実施計画	<p>(1) 統一研究テーマ「地球・地域・人間の共生」にかかわる問題群への大学院生の組み込み。</p> <p>(2) フィールド・ステーションを活用した大学院生へのフィールドワーク支援。地元国際セミナーへの出席支援や、指導教員等による臨地教育(オンサイト・エデュケーション)を含む。</p> <p>(3) 「アジア・アフリカ地域研究統合情報化センター」による情報面での大学院生のフィールドワーク支援。日本国内の指導教員との交信も含む。</p> <p>(4) 「ネットワーク型アジア・アフリカ地域研究機構」をととした情報交換の支援・促進。</p> <p>(5) フィールド・ステーションにおけるドキュメンテーション等をつうじて、フィールドワーク教育の方法と教材の開発。</p> <p>(6) フィールド・ステーションを窓口とする国際学术交流の促進。</p>		

「世界を先導する総合的地域研究拠点の形成」

プログラム全体の見取り図

